

II. スタートラインプロジェクトについて

1-1. スタートラインプロジェクトの概要

「スタートラインプロジェクト」とは

2011年から広島で、居場所のない子どもたちのためのセーフティーネット構築に取り組んでいるピピオ子どもセンター。そして、1984年の設立以来、青少年健全育成分野の研究助成や市民活動支援等に取り組んできたマツダ財団。両者が連携し、スタートラインプロジェクトが生まれました。

子ども担当弁護士やスタッフとして日々奔走するピピオ子どもセンターのメンバーと、マツダ財団のメンバーが集まって、実行委員会を立ち上げ、議論を重ねています。

ピピオの家や はばたけ荘にやってきた子どもたちが、ほっと一息つき、やがて何かを始めようと思う瞬間が訪れる、それがスタートラインです。そこから子どもたちの新たなスタートが始まります。しかし、長い道のりを行く子どもたちには、諦めずに走り抜く力と、伴走者が必要です。そんなスタートラインに立った子どもたちを支えるプロジェクトを…と、実行委員会では考えました。

プロジェクト誕生の背景

ピピオの家で子どもの受け入れを始めて一年が経過した頃、スタートラインプロジェクト実行委員会では、スタッフや子ども担当弁護士に、ヒアリングを行いました。

子どもたちの「成長」

「ピピオの家に避難してきて、しばらくは目線がこれまでのことに向いているけれど、これからのことに目線が向き始めると、顔つきも言葉も変わってくる」「勉強しようかっていう気になった子もあれば、自立に向けて、洗濯を自分でするから干し方を教えてと言いだした子、お料理教えてと一緒に台所に立ち始めた子も…」とスタッフ。

そんな気持ちが芽生えた瞬間を、ピピオの家の日々の生活の中で、見逃さないようにうまく捉えて、スタートラインに立つきっかけを用意することが、とても大切だということが分かってきました。

そこで実行委員会では、ヒアリング結果をもとに議論を重ね、子どもたちが各自のニーズや状況に合わせて選択できるよう、各種の体験メニューを取り揃え、段階的に社会的存在へと成長していけるようなプログラムを用意することにしました。

周囲の人々の「成長」

しかし、成長が必要なのは子どもたちだけではありません。そこで、子どもたちを取り巻く人々の「成長」を支援するプログラムも、二段階で用意することにしました。

第一に、子どもたちの微かな変化を読み取り、的確に対応できる、高度な専門能力を持ったスタッフの能力開発を支援するプログラム。第二に、高度専門スタッフの予備軍やサポーターを増やしていくための、公開講座等のプログラムです。

1-2. プロジェクトの活動内容

こうして、マツダ財団とピピオ子どもセンターの連携事業として、平成25年度より、「スター

トラインプロジェクト」を始めました。毎年、年間予算百万円で、子どもたちと周囲の人々の成長を支援する各種のプログラムを、年間を通じて実施しています。たとえば、毎年6～7月に開講している「ピピオ子どもセンター ボランティアスタッフ養成講座（公開講座）」等を、当プロジェクトとして後方支援しています。

スタートラインプロジェクトの活動内容は、大きく以下の3つから構成されています。

1. 子どもたちの成長
2. 周囲の人々の成長
3. 組織の成長



「スタートラインプロジェクト」の活動内容

1. 子どもたちの成長 (被虐待児等の成長を支援するプログラム)

「ピピオの家」「はばたけ荘」の子どもたちが各自のニーズや状況に合わせて選択できるよう、各種の体験メニューを取り揃え、段階的に社会的存在へと成長していけるよう、以下のようなプログラムを用意します。

①被害回復

(例) 癒しのプログラムとの連携、カウンセリングの充実

②生活習慣の改善

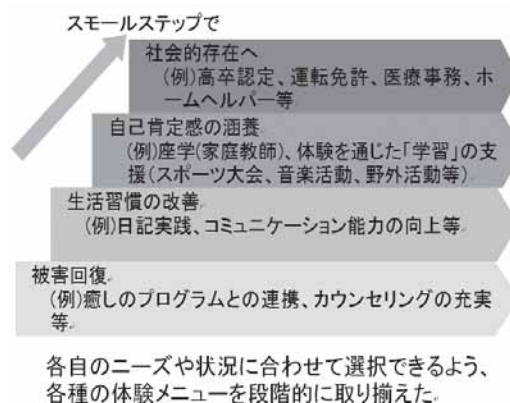
(例) 日記実践、コミュニケーション能力の向上

③自己肯定感の涵養

(例) 座学(家庭教師) 体験を通じた「学習」の支援(スポーツ大会、音楽活動、野外活動、マナー講座、企業体験等)

④資格取得

(例) 高卒認定、運転免許、医療事務、ホームヘルパー等



各自のニーズや状況に合わせて選択できるよう、各種の体験メニューを段階的に取り揃えた。

「スタートラインプロジェクト」子どもたちのための段階的メニュー

2. 周囲の人々の成長 (スタッフの能力開発を支援するプログラム)

成長が必要なのは子どもたちだけではありません。そこで、子どもたちを取り巻く人々の「成長」を支援するプログラムを実施していきます。

第一に、子どもたちの微かな変化を読み取り、的確に対応できる、高度な専門能力を持ったスタッフの能力開発を支援するプログラム。第二に、高度専門スタッフの予備軍やサポーターを増やしていくための、公開講座等のプログラムです。

- ①講座・セミナー・研究会等の開催(一般にも開放)
- ②ケース会議の充実(スタッフ間のコミュニケーションの活性化)
- ③他機関の視察、他機関のスタッフとの交流

3. 組織の成長

(活動基盤の充実や組織能力の向上)

被虐待児等の自立支援をより力強く推進していくためにも、スタートラインプロジェクトとして、ピピオ子どもセンターとして、そしてマツダ財団自身も、活動基盤の充実や組織能力の向上に努めなくてはなりません。

そこで、以下のような活動を推進していきます。

広報活動の充実

ちらし、パンフレット、報告書等の作成 広報誌、
ホームページの充実等

1-3. プロジェクトとしての今後の課題

「ピピオの家」「はばたけ荘」の子どもたちは、これから、社会的存在へと成長することを目指し、スタートラインプロジェクト等を通じて、就業や就学に、懸命に取り組んでいます。そんな子どもたちにとって、一番切実な問題は、「この先どこへ行く？」ということ。これまでピピオの家から自宅へ戻れた子どもは半数足らず。多くの子どもは、十代半ばにしてこれから自分自身の力で生きていかねばなりません。

広島国際大学 医療福祉学部の岡本晴美准教授は、このような子どもたちの多くが、「土台（根っこ）が不安定」であると指摘します。自分自身が安定的ではないため、世の中を安定したものと認識することが難しく、他者との関係に信頼を寄せたり、心地よい関係を結ぶことが難しかったり、日常生活における些細なことでバランスを崩してしまいやすいのです。

こうした困難を抱えながらも、子どもたちは、スタートラインプロジェクト等を通じて、自身の力で生きていくために、就業や就学に懸命に取り組んでいます。けれども、もともと土台（根っこ）が不安定な彼らは、「やはり自分はダメなのだ」と諦めてしまうこともあります。このような子どもたちの状況にご理解を頂きつつ、土台（根っこ）を育てるべく、“おとな”の温かいまなざしを向けてあげてください。そして、地域活動等へのお誘い、就学・就業先等に関する情報があれば、ぜひともピピオ子どもセンターにお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

1-4. 「スタートラインプロジェクト」の事業推進体制

「スタートラインプロジェクト」実行委員会委員名簿

区分	氏名	備考
委員長	平谷優子	特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター理事 弁護士
副委員長	魚谷滋己	公益財団法人マツダ財団 常務理事・事務局長
委員 (監事)	永松貴文	公益財団法人マツダ財団 事務局長代理
委員	掛 幸太	司法書士
委員	菅谷英美	弁護士
委員	砂本啓介	弁護士
委員	世良和美	公益財団法人マツダ財団 総務課長

「スタートラインプロジェクト」事務局員名簿

区分	氏名	備考
事務局長	砂本啓介	弁護士
事務局次長	世良和美	公益財団法人マツダ財団 総務課長
事務局員	小田靖之	特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局

(2016年7月現在, 敬称略・五十音順)

